

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名：「願いの代償」

テーマ：「悪魔なのに甘い物が大好物な美少女」

キャラクター

60

ストーリー

45

テーマ(設定)

45

文章力

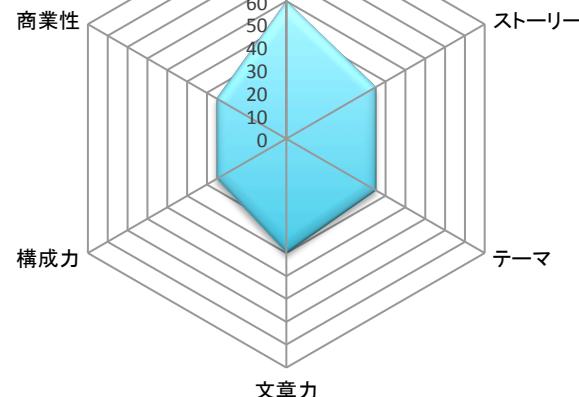
50

構成力

35

商業性

35



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がりに欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要な設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ！」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・悪者が甘いもの好きであるという設定は鉄板であるが、さらにそこから京香をバニラアイスにするというぶつ飛んだ発想はリリーの悪魔的な面と甘い物好きな面を同時に表現していく、非常に巧みな手だと思った。+2。チーズスフレーツで元に戻してしまったのは物語としてどうかという贊否両論はあがられると思うが、個人的には結局スフレーツで魂一つ返してしまくさいお菓子が好き、という描寫としても効果的と思うので面白いと感じた。(チーズスフレではなく、ちょっと高めのハーゲンダッツでは、だめか? 「そのハーゲンダッツは入れるなら元通りにしてやる」「やったー! こんなバニラアイスよりハーゲンダッツの方がよっぽど美味しいや」この二つのセリフでリリーの狂気を表すよりも有効な一手ではないだろうか?)
・一人称視点で描いた方が登場人物たちの心理をより描けたのではないかと感じる。三人称で淡々と登場人物たちの心情を地の文で説明してしまっているため、正直物語に沿う様にかなり強引に心情を都合よく変えさせてしまっているような印象を感じてしまう。
・京香は助かなかった方が物語に救いのなさといつて貰ったのではないか? 救いの無い作品はあまり商業的に受け入れられないが、変にハッピーエンドになるよう帳尻を合わせると結構何がしたいのかさえ分からなくなってる、商業的な価値は更に落ちてしまうと思われる。非常にもつたない。

合計加点ポイント 2

総得点： 270 / 600

B方式総合得点： 12350 点